

## 平成29年度 学校関係者評価報告書

大阪市立昭和中学校 学校協議会

### 1 総括についての評価

「2つの最重要目標である『子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現』および『心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上』は総合的に見て、概ね達成できたといえる」という自己評価は適正であると考える。教職員の自己評価アンケート集計で「個に応じた指導がまだ十分ではない」と考えている教職員が少くない結果が出ていたが、ＩＣＴ機器のさらなる工夫・活用で補っていけたらと思う。

### 2 年度目標ごとの評価

年度目標：【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 平成29年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を86%以上にする。
- 平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

#### 学校園の年度目標

- 平成29年度の道徳の時間に、読み物資料を教材として、すべての教員が2回以上授業を行う。
- 地域と合同の防災教育を年1回以上実施する。
- 平成29年度末の校内調査において「学校へ行くのが楽しい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を82%以上にする。
- 平成29年度末の校内調査において「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答える生徒の割合を87%以上にする。
- 平成29年度の校内調査において「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を57%以上にする。
- 全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている（どちらかといえば持っている）」と答える生徒の割合を昨年度の割合よりも6ポイント以上増加させる。

自己評価Bは適正である。

- 自己評価が厳しいとも感じる。Aに近いBであると思う。
- 不登校生が0になることを願う。

## 年度目標：【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

### 全市共通目標（小・中学校）

- ・平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。
- ・平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 5 割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。
- ・平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 7 割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。
- ・平成 29 年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- ・平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である反復横跳びの平均の記録を、前年度より 2 ポイント向上させる。

### 学校園の年度目標

- ・平成 29 年度の校内調査において「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目について、「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を 82% 以上にする。
- ・給食の平均残食率を昨年度より減少させ、体力を保持増進するための食育・体力づくりを推進する。
- ・大阪市「学校教育 I C T 活用事業」先進的モデル校として、全教員が公開授業を実施し、I C T の活用を推進する。

自己評価 B は適正である。

- ・自己評価が厳しいとも感じる。 A に近い B であると思う。
- ・個人レベルにあった指導に I C T 機器のさらなる活用を望む。

### 3 今後の学校運営についての意見

「健康や体力を保持増進する力の育成」の指標として、学校給食の平均残食率を挙げているが、残食だけではなく、大切なのは食に関する正しい知識や食生活である。しかしながら、これについては学校だけでは指導できず、家庭での食生活も重要になってくる。そのためにも家庭との連携をとった食育を推進することが大切である。